

5-1 国際交流室

研究・教育活動の概要と特色

国際交流室は、学部・研究科の教育・研究のグローバル化促進を目的として平成 25 年度（2013 年度）に新設された運営組織である。これまで研究広報室国際交流担当および留学生担当教員が担っていた役割を引き継ぐとともに、国際交流ディヴィジョンと連携しつつ、国際交流に関わる業務全般の責任主体として活動することになった。構成員（室員）として、従来の留学生担当教員に加え国際交流室専任教員を配置し、副研究科長が室長を兼務する。

教育面における国際交流室の仕事としては、まず海外からの留学生への対応がある。国際交流サポート室に常駐する T A の協力を得て、留学生の学生生活全般に関する日常的な相談・支援を行っている。室員はそれぞれの専門分野に関連した授業を、学部および研究科の共通科目として開講しているが、その一部は英語による授業である。サポート室や共修の授業を通じて日本人学生と外国人学生の交流をはかることは、グローバル化教育という点で重要な意義を有する。また国際交流室は、来日時のアテンド・サービス、奨学金の推薦、研究室配置先の調整（学術交流協定に基づく留学の場合）などのルーティン的な業務を、教務係と協力して確実に遂行している。さらに全学のグローバル化事業との連繋、派遣留学のための情報提供と留学希望者への個別支援も、国際交流室の重要な仕事である。

研究面において、国際交流室は、全学および部局の学術交流協定の締結・更新に関わる業務を担っている。個々の交流の主体は研究科の各教員であるが、国際交流室員も、単独あるいは研究科内の他部門と共同で、それぞれの専門分野に関連する国際的な研究交流を積極的に推進している。

近年、教育・研究のグローバル化に対する要請は大きく、これへの対応として、留学生の受入れ・派遣プログラムの策定、短期留学プログラムの受け入れや、共同学位など新たな教育制度の導入に向けた検討も、国際交流室が主導して進めている。また国内外で開催される留学フェアへの参加、海外の交流拠点校への訪問、研究科ウェブ・サイトの多言語化など、留学生増に向けた戦略的なアクションにも力を入れている。

I 組織

1 教員数（2015年5月20日現在）

教授：1

准教授：1

教授：高橋章則

准教授：村上祐子

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2015年度）

5 留学・留学生受け入れ

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10			
11		1	1
12		1	1
13	1		1
14	7		7
15	7	1	8
計	15	3	18

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

国際交流室は平成25年度（2013年度）に新設された組織であるが、「研究・教育活動の概要と特色」に記したような業務を着実にこなしていると評価できる。全学との連携という点では、平成24年度から実施されている「東北大学グローバル人材育成推進事業」に積極的に参加し、新規授業の開設や今後のグローバル化に向けた調査活動などを行った。

室員の一人である高橋教授は、これまでも留学生担当教員として留学生の修学生活の支援にあたるとともに、留学生向け「日本語日本文化論」の講義を提供してきた。また日本政府（文部科学省）奨学金留学生・日本語日本文化研修留学生・研究生に対する個別の教育指導を行うと同時に、専門である日本思想史分野では各種論文審査に携わるなど、教育面での研究科への貢献が大きい。

ライデン大学（オランダ）、ローマ大学（イタリア）との学術交流を推進し国際シンポジウムを継続的に開催するなど、研究交流の面でも高い評価に値する業績をあげている。

室員の一人である村上准教授は、前任部署である本学理学研究科国際交流推進室での経験をベースとして、平成 25 年度は、国際交流サポート室の立ち上げ、留学生受入れ業務の見直し整備、海外拠点交流校との協議、サマースクール・ウィンタースクールに向けた調整等々、文学研究科の国際交流体制の改善・再構築に大きく寄与した。教育面でも英語による共修授業を開講し、学生から高く評価されている。また国内外の学会で数多くの発表を行うなど、活発な研究活動を続けている。

Ⅲ 教員の研究活動（2010 年度～2015 年 5 月 20 日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

高橋章則 『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重、浮世絵芸術 160 号、pp5-25、

2010 年 7 月

高橋章則 『伊南村史』通史編、第 4 章、第 9 節「文化」二、狂歌・俳諧

歌、832-835 頁、2011 年 9 月

高橋章則 「故俳諧歌場真顔居士追福香花集」広告二種-真顔没後の四方

側一、書物・出版と社会変容第 13 号、183-233 頁、2012 年 10 月

高橋章則 表現される遊女から表現する遊女へ、『男と女の文化史』、47

-74 頁、2013 年 3 月

高橋章則 思想の流通-月次な学芸世界、『岩波講座 日本の思想』第 2

巻、51-82 頁、2013 年 5 月

高橋章則 「狂歌」に結実する地域の文化、『講座東北の歴史』第 5 巻、

295-320 頁、2014 年 2 月

高橋章則 『復古』と考証、『シリーズ日本人と宗教』第 2 巻、神・儒・

仏の時代、第六章、177-213 頁、2014 年 11 月

高橋章則 はじめに、『文化理解のキーワード』、1-7 頁、2015 年 3 月

高橋章則 武家役人と狂歌サークル、『シリーズ本の文化史』第 1 巻、2015

年 5 月

村上祐子 哲学教育の一環としての論理学教育の充実に向けて、『科学哲学』43巻1号、91-97頁、2010年7月

村上祐子 応用哲学は学ぶものか？（書評論文：「応用哲学を学ぶ人のために」「これが応用哲学だ！」）、『科学哲学』46巻1号、69-76頁、2013年9月

Yuko Murakami and Manabu Sumida, HPS/NOS in Japan. Michael Matthews et al. (eds.) *International Handbook of Research in History and Philosophy and Science Teaching*, Springer. February 2014.

1-2 著書・編著

土屋俊監修、大谷卓史編、江口聡・喜多千草・永崎研宣・村上祐子・坪井雅史・川口嘉奈子・吉永敦征・谷川卓『情報倫理入門』、アイ・ケイ・コーポレーション、2012年9月、改訂新版2014年10月
伊勢田哲治・戸田山和久・調麻佐志・村上祐子編『科学技術をよく考える』名古屋大学出版会、2013年4月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

村上祐子 科学史学会年会シンポジウム『大学変革期における科学史教育』報告書、『科学史研究』vol.49(256)、244-246頁、2010年12月

村上祐子・神崎宣次 学会誌と機関リポジトリの協同、『京都大学図書館機構報』第48巻2号、22-23頁、2011年2月

村上祐子 書評：トルケル・フランセーン著、田中一之訳『ゲーデルの定理——利用と誤用の不完全ガイド』（みすず書房）、『数学セミナー』2011年11月号、100頁、2011年11月

村上祐子 JST-RISTEX「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト編『法と科学のハンドブック(ver.20120816)』、36-37頁、68-70頁、2012年8月

村上祐子 書評：哲学者たちの反省（ジュリアン・バッジニー、ピーター・フォスル著、廣瀬・長滝訳『哲学の工具箱』（共立出版）、戸田山和久・美濃正・出口康夫編『これが応用哲学だ！』（大隅書店））、『情報管理』、55巻7号、532-534頁、2012年10月

村上祐子 書評：数学的理解に関して哲学・哲学者は何ができるのか？（砂田利一・長岡亮介・野家啓一『数学者の哲学＋哲学者の数学——歴史を通じ現代を生きる思索』（東京図書））、『数学セミナー』2012年11月号、94頁、2012年11月

村上祐子 哲学の未開地としての化学、『月刊化学』2013年2月号、11頁、2013年1月

Yuko Murakami and Manabu Sumida, in Michael Matthews (ed.) *History and Philosophy of Science and Nature of Science Research in Japan: A Historical Overview. International Handbook of Research in History, Philosophy and Science Teaching*, Springer, 2014.

村上祐子「シンギュラリティを巡る哲学的逡巡」 『情報処理』2015年1月号

村上祐子【翻訳】2014年11月『数理論理学：述語論理と完全性定理』(Raymond Smullyan, *Logical Labyrinths* 後半の翻訳) 丸善出版

村上祐子【翻訳】2015年6月『エニグマ：アラン・チューリング伝（下）』（Andrew Hodges, *The Enigma* 後半の翻訳。土屋俊・土屋希和子と共訳）勁草書房

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

高橋章則 江戸文化理解のキーワード『月次』、「日・蘭・伊三大学国際シンポジウム」における発表、2013年3月18日

Yuko Murakami and Miwa Kuri, *Half academia: case studies on geological science* (with Miwa Kuri, Society for Social Studies of Science (4S), University of Tokyo, Japan. 2010年8月

Yuko Murakami, *Logic education: now and future*. Indiana University Logic Seminar, 2012年2月

Yuko Murakami, *HPS in Japan*. Second Japan-Korea workshop of History and Philosophy of Science, Miyazaki, Japan. 2012年11月

Yuko Murakami, *HPS/NOS in higher education in Japan*. International History, Philosophy and Science Teaching (IHPST) Conference. University of

Pittsburgh. 2013年6月

Yuko Murakami and Miwa Kuri, Science café for information gathering.
Society for Social Studies of Science (4S) annual meeting which will be
held in San Diego. 2013年10月

Yuko Murakami, Interdisciplinarity and Argument Construction Skills. Around
the World Symposium on Technology and Culture 2014. 2014年5月

(2) 国内学会

高橋章則 「四方側」の分裂—真顔没後に作成された三種の名録から導
かれること—、「書物・出版と社会変容」研究会 10月例会、一橋
大学、2010年10月2日

高橋章則 19世紀直江津の文化—狂歌・浮世絵を用いた地域史の再構成
—、「書物・出版と社会変容」研究会 6月例会、一橋大学、2011
年6月7日

高橋章則 地域社会史の資料としての狂歌、尾張藩社会研究会 11月研究
会、名古屋芸術大学、2011年11月26日

高橋章則 月次な学芸世界—飛脚問屋支配人富田永世の狂歌・和歌・和学
—、「書物・出版と社会変容」研究会 9月例会、一橋大学、2012年9
月29日

高橋章則 「天童広重」の背景にあるもの、日本文芸研究会第65回総会・
研究発表大会、山形大学、2013年6月8日

高橋章則 「歌川広重自筆画稿本『狂歌文茂智登理』について」、「書物・
出版と社会変容」研究会 7月例会、一橋大学、2014年7月26日

村上祐子 e-サイエンスの方法論再考、応用哲学会大会、北海道大学、2010
年4月

村上祐子・久利美和 ハーフアカデミック：モード2サイエンスと研究者
のキャリアパス、日本地球惑星科学連合、幕張メッセ、2010
年5月

久保田祐歌・菊地建至・村上祐子 哲学教育に関する情報共有システム構
築、京都大学高等教育研究開発推進センター第17回大学教育研究フォー
ラム、京都大学、2011年3月

村上祐子 法と科学の界面における真理、科学基礎論学会大会、愛媛大学、

2011年6月5日

村上祐子 石黒ひでとその周辺、応用哲学会大会、千葉大学、2012年4月
久利美和・村上祐子・立花浩司 科学的不確実性を取りあつかう場合の情
報収集型サイエンスカフェの試み、科学技術社会論学会第11回年次研
究大会、湘南国際村センター、2012年11月

村上祐子 プライバシー：文脈統合と分散知識、応用哲学会第5回大会、南
山大学、2013年4月

Yuko Murakami, What does “academic writing” mean in Japanese higher
education? 応用哲学会第5回大会、南山大学、2013年4月

村上祐子・黒川英徳・矢田部俊介・岡本賢吾 構成的真意味の理論とパラ
ドクスの解決、日本哲学会ワークショップ、お茶の水女子大
学、2013年5月

村上祐子 プライバシー概念の論理的記述、電子情報通信学会技術と社会
・倫理研究会（SITE）、情報セキュリティ大学、2013年5月

村上祐子 地球科学における研究管理：ケーススタディ、日本地球惑星科
学連合2013年大会、幕張メッセ、2013年5月

村上祐子 即興演奏と作品の境界、日仏現代音楽協会・日仏即興演奏シン
ポジウム、代官山エナスタジオ、2013年9月

村上祐子 科学的知識の伝達と意思決定の論理（ワークショップ「異分野
交流、科学技術コミュニケーション実践時の言語・概念のズレ」）、
科学技術社会論学会大会、東京工業大学、2013年11月

村上祐子 サイエンス・コミュニケーションにおける論理性、日本科学哲
学会大会、法政大学、2013年11月

村上祐子【報道】 2014年1月 日本棋院「囲碁未来」記事掲載（「よん
ろの碁」が東北大学で講義ツールに） 2014年1月号

村上祐子【報道】2014年8月 「科学を物事の判断に活かす」 NCV9ch ニ
ュース ニコニコケーブルテレビジョン（株式会社ニューメディア
ア）

村上祐子「囲碁を利用した論理学授業」第20回大学研究フォーラム 京都
大学吉田南キャンパス 2014年3月18日

久利美和・村上祐子「大学による高校課題研究支援からみる高校地学：分
野横断と統計学」日本地球惑星連合大会 高等学校の地球惑星科学教

育セッション 2014年4月29日 パシフィコ横浜
村上祐子「論証構成スキルと異分野協同」応用哲学会第6回年次大会 関
西大学高槻ミューズキャンパス 2014年5月10日
Yuko Murakami, Interdisciplinarity and Argument Construction Skills. Around
the World Symposium on Technology and Culture 2014年5月21日（オ
ンラインビデオ発表）
村上祐子「異業種共同の情報倫理 ～ 倫理規範と信念改訂～」電子情報
通信学会 SITE（技術と社会・倫理）研究会 2014年7月3日 サン・
リフレ函館
村上祐子「シンギュラリティ」第6回情報倫理研究会 吉備国際大学岡山
駅前サテライトキャンパス 2014年9月4日
Yuko Murakami, Gamification of logic education: first-order logic through Go.
IHPST Asia 2014, Taipei, 2014年12月5日
村上祐子「シンギュラリティと責任」第7回情報倫理研究会 神奈川大学
箱根保養所 2014年12月12日
村上祐子「哲学系学会で論理学セッションを楽しむには」応用哲学会第7
回大会 2015年4月25日 東北大学川内キャンパス

2 教員の受賞歴（2010年度～2015年5月20日）

村上祐子 東北大学男女共同参画委員会 平成22年度（第8回）沢柳賞
プロジェクト部門「地域の子育て情報交換の場と父親の育児参加を促
す企画としての科学普及活動」（阿部比佐久、久利美和と共同受賞）、
2010年12月
村上祐子 東北大学科学者の卵養成講座（科学技術振興機構「未来の科学
者養成講座」委託事業）発表会「科学を見る眼」プレゼン会議 ポス
ター発表 エクステンドコースの部 第1位「これからの科学者の定
義 ～原発事故から学ぶ～」、2012年3月

IV 競争的資金獲得（2010年度～2015年度）

（1）科学研究費補助金

2010年度

高橋章則：基盤研究（C）「『天領』の思想・文化・学問に関する研究」
（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

2011年度

高橋章則：基盤研究（C）「『天領』の思想・文化・学問に関する研究」
（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（C）「哲学のための中上級論理学推進」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

村上祐子：基盤研究（C）「歴史的・論理学的手法を用いるプライバシーの多義性と文脈依存性に関する研究」（研究協力者、研究代表者：大谷卓史）

2012年度

高橋章則：基盤研究（C）「『狂歌』を端緒とした近世後期の地域文化形成に関する研究」（研究代表者）

高橋章則：基盤研究（A）「『書物・出版』と社会変容」（研究分担者）

村上祐子：基盤研究（C）「哲学のための中上級論理学推進」（研究代表者）

村上祐子：基盤研究（B）「科学技術社会論と融合したクリティカルシンキングの研究および教育手法開発」（研究分担者、研究代表者：伊勢田哲治）

村上祐子：基盤研究（B）「討議倫理のモデル構築」（研究分担者、研究代表者：野家啓一）

村上祐子：挑戦的萌芽研究「研究関連組織の科学普及活動実践者のキャリア

- アパス：実態と可能性」（研究分担者、研究代表者：久利美和）
- 村上祐子：基盤研究（C）「歴史的・論理学的手法を用いるプライバシーの多義性と文脈依存性に関する研究」（研究協力者、研究代表者：大谷卓史）
- 村上祐子：基盤研究（B）「計算の哲学—様々な展開に向けて—」（研究協力者、研究代表者：三好博之）

2013 年度

- 高橋章則：基盤研究（C）「『狂歌』を端緒とした近世後期の地域文化形成に関する研究」（研究代表者）
- 高橋章則：基盤研究（A）「『書物・出版』と社会変容」（研究分担者）
- 村上祐子：基盤研究（C）「哲学のための中上級論理学推進」（研究代表者）
- 村上祐子：基盤研究(A)「大学教育改善の促進と教育イノベーション普及のための『大学教育コモンズ』の構築」（研究分担者、研究代表者：飯吉透）
- 村上祐子：挑戦的萌芽研究「研究関連組織の科学普及活動実践者のキャリアアパス：実態と可能性」（研究分担者、研究代表者：久利美和）
- 村上祐子：基盤研究（B）「計算の哲学—様々な展開に向けて—」（研究協力者、研究代表者：三好博之）
- 村上祐子：基盤研究（C）「歴史的・論理学的手法を用いるプライバシーの多義性と文脈依存性に関する研究」（研究協力者、研究代表者：大谷卓史）

2014 年度

- 高橋章則：基盤研究（C）「『狂歌』を端緒とした近世後期の地域文化形成に関する研究」（代表者）（2012 年度から）
- 高橋章則：基盤研究（A）「『書物・出版』と社会変容」（分担）

2015 年度

- 高橋章則：基盤研究（C）「『狂歌』を端緒とした近世後期の地域文化形成に関する研究」（研究代表者）
- 高橋章則：基盤研究（A）「『書物・出版』と社会変容」（分担）
- 村上祐子：基盤研究(C)「シンギュラリティと責任の論理」（研究代表者）

(2) その他

2010 年度

- 高橋章則：研究科長裁量経費「有備館講座 第九期」
高橋章則：研究科長裁量経費「齋理蔵の講座 第三期」
村上祐子：科学技術振興機構社会技術研究開発センター「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト

2011 年度

- 高橋章則：研究科長裁量経費「有備館講座 第十期」
高橋章則：研究科長裁量経費「齋理蔵の講座 第四期」
村上祐子：科学技術振興機構社会技術研究開発センター「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト

2012 年度

- 高橋章則：研究科長裁量経費「日・蘭・伊 3 大学国際学術シンポジウム ローマ大会共同開催事業」
村上祐子：科学技術振興機構社会技術研究開発センター「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト

2013 年度

- 高橋章則：研究科長裁量経費「日・蘭・伊 3 大学国際学術シンポジウム ライデン大会共同開催事業」

2015 年度

- 高橋章則：研究科長裁量経費「日・蘭・伊 3 大学国際学術シンポジウム 仙台大会共同開催事業」

V 教員による社会貢献（2010 年度～2015 年度）

高橋章則

- ・有備館講座第九期（公開講座企画）、2010 年 5 月～2010 年 9 月
- ・齋理蔵の講座第三期（公開講座企画）、2010 年 6 月～2010 年 10 月
- ・公開講座講演「表現される遊女から表現する遊女へー19 世紀江戸吉原の世界ー」、有備館講座第十期、2011 年 5 月 14 日
- ・有備館講座第十期（公開講座企画）、2011 年 5 月～2011 年 9 月
- ・齋理蔵の講座第四期（公開講座企画）、2011 年 6 月～2011 年 10 月

- ・有備館講座第十一期（公開講座企画）、2012年5月～2012年9月
- ・齋理蔵の講座第五期（公開講座企画）、2012年6月～2012年10月
- ・公開講座講演「狂歌でたどる『伊達』な風物」、文学研究科・紅葉の賀、
2012年11月3日
- ・公開講演会「直江津今町の町衆文化」、まちおこし直江津、2012年11
月17日
- ・有備館講座第十二期（公開講座企画）、2013年5月～2013年9月
- ・齋理蔵の講座第六期（公開講座企画）、2013年6月～2013年10月
- ・公開講演会「江戸時代末の塩竈の文化」、なみこし縁日（塩竈市雲上寺）、
2013年5月19日
- ・公開講演会「『天童広重』の背景にあるもの」、日本文芸研究会（山形
大学）、2013年6月8日
- ・公開講演会「直江津ルネサンスー千代垣碑が問いかけるものー」、まち
おこし直江津、2013年7月12日
- ・公開講座講演「田尻の中の江戸ー全国に知られた狂歌作者たちー」、有
備館講座第十二期、2013年7月17日
- ・公開講座講演「江戸文化理解のキーワード『月次』」、文学部オープン
キャンパス、2013年7月31日
- ・公開講演会「『奥州仙台名所尽集』のなかの塩竈」、第二回塩竈のに
ぎわいを楽しむ会、2013年10月31日
- ・文化講演会「天童の狂歌師たちー江戸と地方をつなぐ俳諧歌の世界
ー」、天童広重研究会、2013年12月8日
- ・有備館講座 第十三期（公開講座企画）2014年5月～2014年9月
- ・齋理蔵の講座 第七期（公開講座企画）2014年6月～2014年10月
- ・総会記念講演会「塩竈の遊女のはなし」、NPO みなとしおがま、2014
年11月
- ・出張講演「スーパーグローバルハイスクールからスーパーグローバルユニバーシティへ」、長野県
長野高等学校、2015年4月18日
- ・有備館講座 第十四期（公開講座企画）2015年5月～2015年9月
- ・齋理蔵の講座 第八期（公開講座企画）2015年6月～2015年10月

村上祐子

- ・法と科学の哲学カフェ「合理性の衝突」、東京・サロンド富山房 FOLIO、2010年12月
- ・名古屋大学 SP カフェ 「科学が行われている現場の実情」－学術研究政策が個人の活動に及ぼす影響」、名古屋大学、2011年1月
- ・小澤正直教授講演会 『科学哲学と物理学の交流－量子力学のフロンティアと東工大の文理融合知－』 パネルディスカッション、東京工業大学エージェントベース社会システム科学研究センター、2012年4月
- ・法と科学の哲学カフェ「震災後の科学コミュニケーションに見る「事実」と「価値」」、千葉・トレジャーリバーカフェ、2012年5月
- ・出前授業「科学と法の不確実性とコンカレント・エビデンス」、山形県立米沢興譲館高等学校、2012年7月
- ・科学哲学実験室 in 青学（一般社会人対象）、青山学院大学、2013年7月
- ・出前授業「科学的とは何か？：推論の特質」、宮城県立古川黎明中等教育学校、2013年10月
- ・法と科学の哲学カフェ「ロボットをめぐる法と倫理」、さんさき坂カフェ、2013年11月
- ・公開講座「間奏:現代論理から広がる豊かな世界」、首都大学東京オープンユニバーシティ「身につけよう！現代論理学のエッセンス」、2013年11月
- ・出前授業「科学と法の不確実性とコンカレント・エビデンス」、山形県立米沢興譲館高等学校、2013年12月
- ・出前授業「かっこいいそをつこう！」（小学生対象）、千代田区立富士見わんぱくひろば学童クラブ、2014年2月
- ・日英高校生のためのサイエンス・ワークショップ(UK-Japan Young Scientist Workshop)指導 2014年8月

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010年度～2015年度）

高橋章則

- ・日本文芸研究会常任委員

- ・国立大学法人総合研究大学院大学大学院教育改革支援プログラム評価部会委員

村上祐子

- ・科学基礎論学会 理事・広報委員長（2009～現在）
- ・日本科学哲学会 評議員・大会実行委員（2009～現在）
- ・応用哲学会 理事（2008～2013年度）
- ・日本哲学会 評議員（2013～現在）
- ・国際学会派遣（日本学術会議特任連携会員）

2012年10月 国際科学史・科学哲学・科学教育(IHPST)アジア地域会議
(ソウル)

2014年12月 国際科学史・科学哲学・科学教育(IHPST)アジア地域会議
(台北)

- ・科学研究費補助金審査委員
 - 平成24年度 第一段審査委員（哲学・倫理学）
 - 平成25年度 第一段審査委員（哲学・倫理学）
- ・学術雑誌編集委員
 - 日本科学哲学会「科学哲学」編集委員
 - 応用哲学会「Journal of Contemporary and Applied Philosophy」編集委員

Ⅶ 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2015年度)

1 大学院授業担当

高橋章則

- 日本文化研究演習
- 日本文化研究演習
- 日本語論文作成法

2 学部授業担当

高橋章則

- 日本語・日本文化論講読

日本語・日本文化論講読
日本語表現論
村上祐子
人文社会科学総合

3 共通科目・全学科目授業担当

高橋章則
日本語D

4 その他

村上祐子
Introduction to Humanities and Social Sciences
(IPLA 開講科目)

(2) 他大学への出講 (2010年度～2015年度)

高橋章則
東北学院大学 日本文化論 (2009～2014年度)
東北薬科大学 文章の表現 I・II (2009～2014年度)

村上祐子
立教大学理学部 サイエンスコミュニケーション (2011～2013年度)
京都大学 論理学上級 II (2013年度)
協定校・協定準備校個別訪問

2011年度
オランダ：グローニンゲン大学

2013年度
台湾：輔仁大学
カナダ：オタワ大学、クイーンズ大学、ニューブランズウィック大学

2014年度
カナダ：ニューブランズウィック大学
ロシア：モスクワ大学

中国：吉林大学

海外プログラム企画・運営

2014年度 カケハシプログラム（国際交流基金・フルブライト委員会）

学生24名を2週間アメリカ研修に引率、東北の現状を中心とした
日本文化の紹介プレゼンテーション（英語）の指導

2014年度 カナダ東北人文社会科学研修：3週間プログラムの引率